

2023年12月18日

東京医科歯科大学病院

「触覚」を有する手術支援ロボットシステム 「Saroa サージカルシステム」を用いた 婦人科領域での初症例に成功

【ポイント】

●「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroa サージカルシステム」を用いた婦人科領域での初症例を、東京医科歯科大学病院で2023年10月20日に実施し、患者さんも無事に退院されました。

東京医科歯科大学病院（病院長：藤井靖久）周産・女性診療科は、東京工業大学、リバーフィールド株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：只野耕太郎）と共同開発を行った「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroa サージカルシステム」（承認番号：30500BZX00108000、以下「Saroa」）を用いた婦人科領域での初症例を、2023年10月20日に実施し、患者さんも無事に退院されたことをご知らせいたします。

東京医科歯科大学病院では、2023年7月に「Saroa」を用いた消化器外科領域での初症例成功に続き、2領域での成功となります。

婦人科領域での「Saroa」による初症例（ロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術及び両側付属器摘出術）は、東京医科歯科大学病院 周産・女性診療科 吉木尚之准教授の執刀により実施されました。

執刀した吉木尚之准教授は、「既存の手術支援ロボットが4本のアームを有しているのに対して、「Saroa」のアームは3本のため、補助ポートを含めて4ポートで手術を実施し、安全で低侵襲のロボット支援下手術が実現できました。婦人科領域の手術に国産の新たな手術支援ロボットが使用できるようになり、選択肢が増えました」と述べました。

近年、外科手術において、術後の回復が早い、傷口が小さいなどの利点から、低侵襲の内視鏡外科手術における手術支援ロボットでの治療が増加の一途をたどっています。手術支援ロボットは、手振れ防止機能や手術で使用する術具（鉗子）に関節があることで精密に操作を行うことができ、外科手術における手術支援ロボットでの治療が今後さらに普及すると予想されています。

「Saroa」は、独自の空気圧精密制御技術を生かし、手術に使用する鉗子にかかる力を検出し、執刀医に触覚（力覚）をフィードバックする機能を搭載しています。従来にはなかった触覚（力覚）を有することにより、自分の手で直接手術しているような感覚が得られ、手術の精度がより高くなると期待されています。

【手術の様子】



【研究者プロフィール】

吉木 尚之(よしき・なおゆき) Yoshiki Naoyuki
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
医歯学専攻 器官システム制御学講座
生殖機能協関学分野 准教授

【問い合わせ先】

<研究に関すること>

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
医歯学専攻 器官システム制御学講座
生殖機能協関学分野 准教授
吉木 尚之(よしき・なおゆき)
E-mail : n.yoshiki.crm@tmd.ac.jp

<報道に関すること>

東京医科歯科大学 総務部総務秘書課広報係
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL : 03-5803-5833 FAX : 03-5803-0272
E-mail : kouhou.adm@tmd.ac.jp



【「Saroa サージカルシステム」外観】



<Saroa サージカルシステムに関すること>

リバーフィールド株式会社 営業・マーケティング部

TEL : 03-6822-9700

e-mail : product@riverfieldinc2.com

<Saroa サージカルシステムの報道に関すること>

リバーフィールド株式会社 広報担当

TEL : 03-6822-9700

e-mail : interview_req@riverfieldinc2.com